

第44週の発生動向(2005/10/31~2005/11/6)

1. 流行性耳下腺炎は、むつ保健所管内で**注意報**が出されています。また、感染性胃腸炎、水痘、伝染性紅斑、流行性耳下腺炎などは、増加傾向にありますので、今後注意が必要です。

第44週五類感染症定点把握

保健所名 疾患番号・疾患名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(72) インフルエンザ															0
(60) 咽頭結膜熱															-1
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	1.00	3	0.30	3	0.33			2	0.33			16	0.38	1
(62) 感染性胃腸炎	27	3.38	5	0.50	12	1.33	3	0.60	3	0.50	10	2.50	60	1.43	13
(63) 水痘	7	0.88	15	1.50	4	0.44	5	1.00	16	2.67	1	0.25	48	1.14	3
(64) 手足口病	3	0.38							2	0.33	2	0.50	7	0.17	0
(65) 伝染性紅斑	13	1.63	10	1.00	2	0.22			1	0.17			26	0.62	2
(66) 突発性発しん	5	0.63	9	0.90	3	0.33	2	0.40	1	0.17	5	1.25	25	0.60	7
(67) 百日咳															0
(68) 風しん					1	0.11							1	0.02	1
(69) ヘルパンギーナ			5	0.50			1	0.20					6	0.14	-2
(70) 麻しん(成人を除く)															0
(71) 流行性耳下腺炎	6	0.75	1	0.10	5	0.56	11	2.20	2	0.33	13	3.25	38	0.90	-3
(73) 急性出血性結膜炎															0
(74) 流行性角結膜炎	3	1.50	1	0.33			3	3.00	5	2.50			12	1.09	-2

保健所名	定点数			
	インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	内科	基幹
青森	13	8	5	2
弘前	16	10	6	3
八戸	14	9	5	2
五所川原	7	5	2	1
上十三	9	6	3	2
むつ	6	4	2	1
合計	65	42	23	11

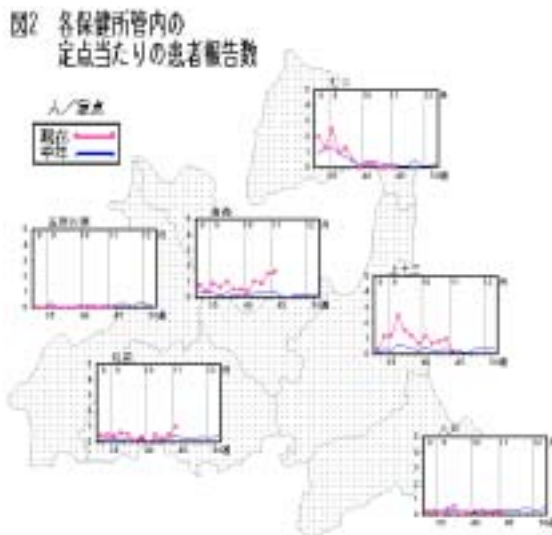
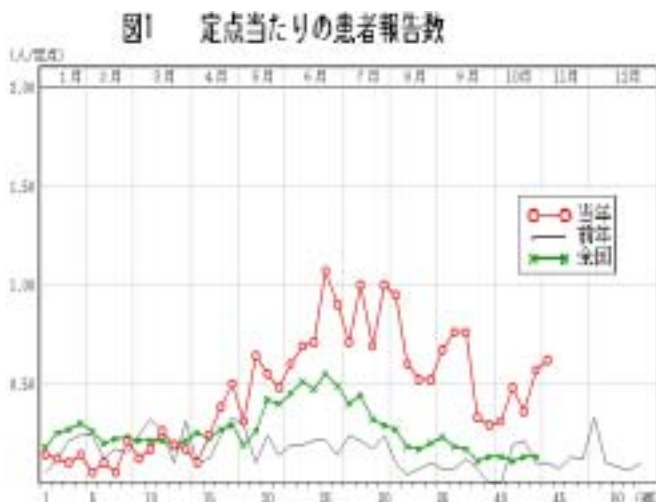
■ は警報 ■ は注意報 「空欄」: 患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (17年計には、今回届出された人数を含む)

(84) 無菌性髄膜炎(五類基幹定点把握疾患) 青森保健所管内: 2人 (17年計 3人)

感染症の窓

伝染性紅斑



昨年同期よりも患者数が多い状態で推移し、定点当たりの患者数は、全国値を上回っています(図1)。地域的には、青森、弘前保健所管内で増加傾向にあります(図2)。

伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルスB19感染により、幼児、学童に好発する感染症です。約1週間の潜伏期間の後、軽いかぜ症状を示し、その数日後に両頬、腕、脚に紅斑が生じます。成人では、頬には紅斑が生じないこともあります。

感染経路は飛沫感染、または接触による経気道感染です。ワクチンがないので、うがい・手洗い等をまめに行うことが大切です。

なお、この病気の特徴である紅斑が発現する時期には、ほとんど感染力はありません。